

郷土資料館だより

Vol.34 No.3
2012.3.25豊臣秀吉発給の掟書^{おきて がき}

三島市郷土資料館では、歴史資料として豊臣秀吉の掟書を購入しましたのでご紹介します。

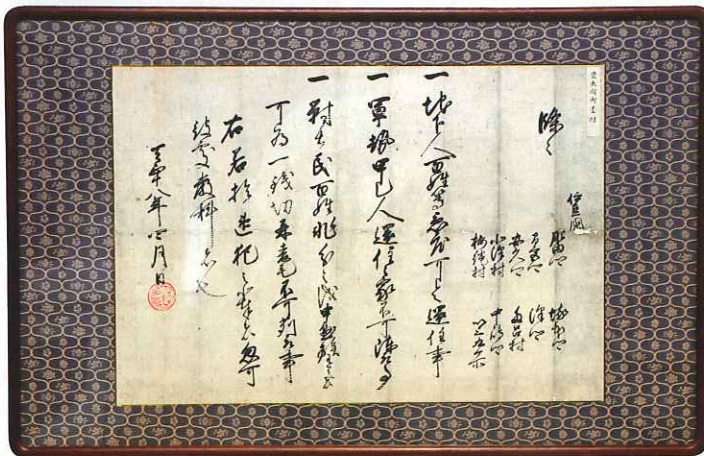
この豊臣秀吉の掟書は、天正18年（1590）に豊臣秀吉と後北条氏との間で行われた小田原合戦に際し、後北条領国下の郷や村の人々に対し、豊臣軍の行動を規制し、治安維持を保証するため、国ごとに多数発給された文書の1通です。

書状の大きさは、横65cm、縦45cmで、秀吉の好みだったらしく、文書としては大変大きなものです。檀紙と呼ばれる厚手の高級和紙が用いられており、保存状態は極めて良好ですが、一部に補修された痕や変色が認められ、現状は額装となっています。

文面は「条々」に始まり、肥田郷、梅名村など、三島市中郷地区から函南町北部の村落9ヶ所の充所（所付け）が明記され、3箇条の条文と罰則規定、日付が記されており、秀吉の朱印が押印されています。その内容は、「①庶民、百姓等は必ずこの地に戻ってきて生活する事。②軍勢、また、その他のいかなる者であっても、この土地に戻ってきて住んでいる百姓の家を奪うようなことのないようにする事。③土着の民、百姓に対して、もしも道理に合わないような言い掛かりをつける者がいれば、一銭切にする。また、麦などの作物を刈り取ることをないようにする事。」とあり、「もし背く者があれば、速やかに処罰を加えるものである。」となっています。

戦国時代の戦争は、放火・略奪・人さらいなどを伴う過酷なものであったため、敵が攻めてきた場合、村人は家財を地中に埋め、領主の城に逃げ込むか、付近の裏山に小屋を造って避難したり、逃亡することが普通でした。この掟書が発給された4月は、まだ韮山城で戦闘が続いているので、田方地方の農民は耕作を放棄して逃亡してははずです。しかし、既に麦秋の刈り入れと田越しの時期を迎え、農民を帰村させ、戦後復興を図ることが現実的課題となったのでしょう。この文書からは、そうした秀吉の占領地政策が垣間見えてきます。

また、既に麦秋の刈り入れと田越しの時期を迎え、農民を帰村させ、戦後復興を図ることが現実的課題となったのでしょう。この文書からは、そうした秀吉の占領地政策が垣間見えてきます。



豊臣秀吉発給の掟書

これからの展示予定

◆収蔵品紹介～新規収蔵資料、修復済資料、整理・調査資料の紹介

平成24年4月28日(土)～6月10日(日)

主な展示資料：豆州志稿、伊豆国全図、豊臣秀吉掟書、山口余一関係資料、梅御殿杉戸絵、三島宿町軒図、落合家文書、中 鈴木家文書 ほか

◆収蔵品紹介～災害の記録

平成24年7月28日(土)～9月9日(日)

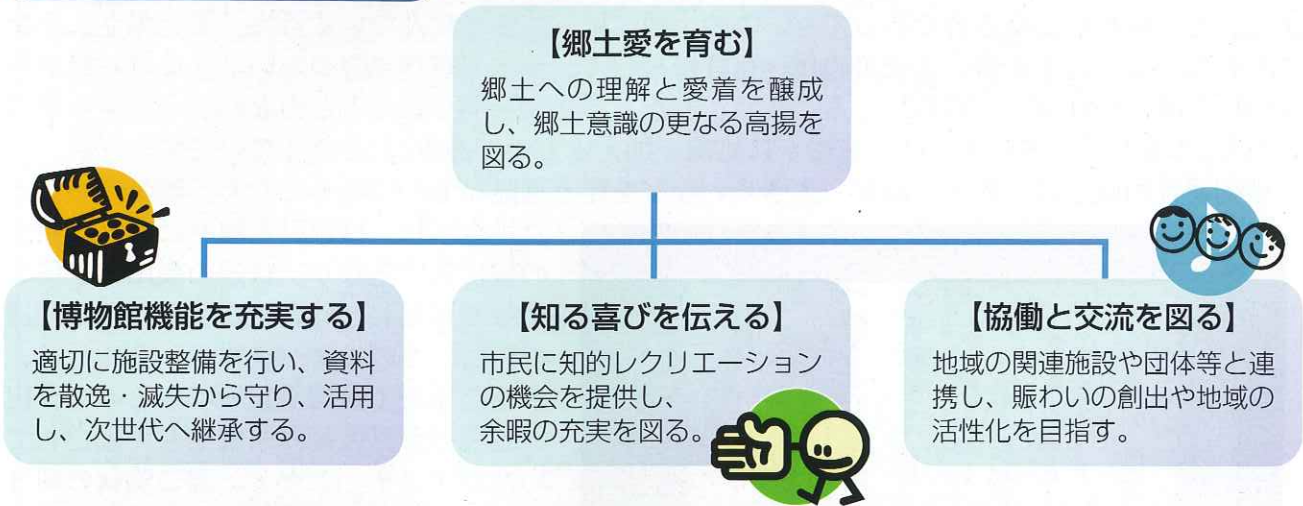
主な展示内容：①地震：安政の大地震、北伊豆震災 ②火災：江戸時代の宿場の火災、近代の消防 ③水害：狩野川台風、七夕豪雨、平成の豪雨、河川改修 ④東日本大震災：文化財の被災、三島市の取り組み ⑤防災グッズ紹介

郷土資料館耐震補強事業

郷土資料館は、平成22年度に移転改築に係る基本構想の策定と実施設計をおこないました。しかし、市民のコンセンサスが十分に得られていない等の状況を踏まえ、今年度は、計画を1年先延ばしして各種団体等のヒアリングを行い、協議・検討を重ねてきました。その結果、移転改築を取り止め現館を耐震補強するとともに、これを契機に新たな事業の展開を試みながら郷土の魅力を広く発信するため、施設面と活動面の双方をリニューアルすることとなりました。このため、郷土資料館は平成24年10月1日から休館となり、リニューアルオープンは平成25年の秋を予定しています。

郷土資料を扱う博物館としての施設設備を整え、資料及び利用者の環境を向上させるとともに、体験学習を主とした教育普及に係る施設機能を強化し、広く愛される施設を目指します。そして、市民ボランティアと協働して事業に取り組みながら、利用者の拡大と市街地等への回遊性の向上を図っていきたいと考えています。

リニューアルの意義と目的



リニューアルの概要

◆施設・設備の主な改修内容

- 2階常設展示室を昔のくらし体験学習室に、3階常設展示室を三島の成り立ち体験学習室に改修する。
- エレベータ棟、非常用外階段、多目的トイレを新設する。

◆リニューアル後の事業展開の一例

- ボランティアと協働して子ども向け郷土教室を月2回開催する。
- 学校、社会福祉施設等の団体利用の拡大を図る。
- 宿場まつり等の館外イベントへ参加・出展する。
- ホームページ上で収蔵品のデータが閲覧できるよう整備する。

◆事業スケジュール

	平成24年度	平成25年度
耐震補強・改修工事	実施設計	工事
展示リニューアル	計画作成	展示制作、設置・演示作業
館運営	引越し準備、搬出	搬入
	全館休館	

リニューアル

郷土資料館ボランティア養成講座報告

●開催期間 平成23年7月10日(日)～平成24年3月18日(日) 全10回



第3回 スキルアップでのグループトーク

- 会場 郷土資料館、生涯学習センターほか
- 受講者 38人

9か月をかけてボランティア養成講座を実施してきました。三島の歴史・民俗・自然等について座学形式で学ぶと共に、学芸員の仕事や博物館の基本的な活動について理解を深めるための体験や他館の活動事例を学ぶための視察などを行いました。そして、郷土資料館でこれからどのような事業を展開していくとよいか、みなさんと話し合いをしました。

講座カリキュラム

回	とき	内容
1	7月10日(日)	開講式、オリエンテーション、三島の歴史1：原始・古代
2	8月21日(日)	三島の歴史2：中世、博物館体験1：資料整理
3	9月11日(日)	三島の民俗、博物館体験2：フィールド調査
4	10月16日(日)	三島の歴史3：近世、スキルアップ1：博物館におけるコミュニケーション
5	11月13日(日)	三島の自然・楽寿園の自然、博物館体験3：ワークショップ体験～回想法、工作
6	12月11日(日)	三島の歴史4：近代・近現代、スキルアップ2：他の博物館活動の事例から学ぶ
7	1月15日(日)	三島の歴史5：近現代トピックス、事業づくり1：ボランティア事業計画作成～導入
8	2月4日(土)	視察先：平塚市博物館、神奈川県立生命の星地球博物館
9	2月12日(日)	事業づくり2：ボランティア事業計画作成～実践
10	3月18日(日)	まとめ：郷土資料館が「わたしのだいじな場所」となるために、閉講式

受講生の感想から

三島に住んで35年になりますが、知らないことが随分多くあるとつくづく感じました。生まれ育った土地より長く住んでいるのに、です。昔のエピソードを知ることが、楽しい事です。昔の人の知恵や感情（喜び、悲しみ…）等を身近に感じ、今につながるリアルな過去に触れることが出来ます。昔の人の息づかいが単なる遺物でなく、明日への架け橋となるような郷土資料館にするために、工夫が必要だと思いました。



第2回 博物館体験での資料カード作り



第9回 事業づくりでのグループ発表

平成24年度の取り組み

展示ガイド、あそび、楽寿園、まなびをテーマにした4つのグループに分かれ、ボランティアの活動が始まります。まず、平成24年5月からは、毎月第2日曜日に主に幼児から小学生を対象とした体験教室を開催する予定です。皆さん、乞うご期待！

体験学習プログラムの展開

郷土資料館では今年度、国の重点分野雇用創造事業を活用して臨時職員2名を新たに雇用し、子どもを対象とした体験学習プログラムの企画・実施をしました。その活動をご紹介します。



製麺機を使ったうどん作りの体験

小学生の社会科見学

新学習指導要領の全面実施の影響もあってか、今年度は三島市内だけでなく裾野や函南、伊豆長岡などからも、小学3、4年生が当館へ社会科見学に来てくれました。延べ19校、約1,300人(前年度の1.9倍)のお友だちに、昔の暮らしについて学んでもらいました。

2階展示室にある民俗資料の解説に加えて、事前に施設見学の予約をいただいた皆さんには、石臼、かつお節削り器、製麺機、棒はかりや一合杓といった昔、家庭にあった暮らしの道具を実際に使ってもらおうという体験学習にも取り組み、大変好評でした。

子ども向けメニュー

楽寿園へ遊びに来た子どもたちに、郷土資料館を気軽に楽しんでもらおうと、申込不要・参加費無料のいろいろなメニューを月に1回程度、不定期でしたが企画・実行実施しました。

季節にちなんだ折り紙あそびや絵本の紹介、楽寿園の開園記念日には昔なつかしい楽寿園を紹介するミニ展示、楽寿園の木々の葉っぱを使ったモバイル作り、企画展の子ども向け解説、昔話や身近な生き物をテーマにした紙芝居の上演などなど。三島に伝わる言成地蔵のお話の紙芝居も作製しました。



紙芝居「いいなりじぞう」の上演



偏光顕微鏡で見た三島溶岩流

富士山の日協賛事業「溶岩の中をのぞいてみよう」

2月23日(木)は「富士山の日」ということで、来館された皆さんに、約1万年前の富士山の噴火で三島に流れ着いた溶岩をルーペや偏光顕微鏡で観察したり、伊豆半島の成り立ちや富士山の噴火の歴史の資料を見たりと、三島の自然について理解を深めてもらいました。

今後は自然豊かな楽寿園の中にあるという立地条件を生かして、こういった自然科学分野のメニューも提供していきたいと考えています。

生涯学習課との連携

12月18日(日)に生涯学習課主催の「後期みしまっ子体験塾」に参加する小学4～6年生が当館を訪れました。昨年度のプロモーションビデオ制作体験(映像はYouTubeでご覧いただけます。【動画祭2010】WE ARE みしまっ子 IN 三島市郷土資料館)に続いての来館です。今年度はバックヤード体験の一環でしたので、より郷土資料館や学芸員の仕事を知ってもらうため、普段はお見せしない収蔵庫の見学や昔の道具を使った資料調査の体験をしてもらいました。今後もより一層、他部署や団体等との連携を深め、子どもたちの学びを豊かにしていきたいと考えています。

伊豆半島ジオパーク構想 Vol.4

楽寿園内で見られるジオサイトを紹介します。園内は約1万年前に新富士火山から流出した玄武岩質の「三島溶岩」に覆われています。三島溶岩は火口から三島まで約30kmも流れる間に、ガス成分が溶岩の上部に移動したため、上部は気泡に富みカルメ焼き状になり、中心部は気泡が少なく緻密です。三島溶岩は良質な石材です。気泡の多い部分は石垣に、緻密な部分は石橋、石碑、墓石として利用されました。市内の各所で見る事が出来ます。

三島宿の北側に位置する小浜山（三島溶岩末端部の起伏に富む地形、楽寿園～三島駅周辺）は、江戸時代以前から採石場でした。そのため小浜池の中を含めて園内に分布している溶岩表層部には人工的に切り取られた跡がたくさん残っています。

楽寿館の前にある「深池」は、気泡の少ない良質な石材を切り出すために、溶岩を深掘りした跡です。深池に架かる寿橋から北側を見ると、深さは5m近く有ります。池の周囲が垂直になっているのは石を切った跡です。池の真ん中には切り残しの溶岩が島となって残っています。

深池の底の標高は約27mです。小浜池の最深部の標高が約26mなので、水位の高い夏期は水没します。深池の石切りの深さは湧水の水位で決まったようです。石切作業は主に冬季に行われたでしょう。

「三島宿風俗絵屏風」(天保年間1830～1844)には深池が描かれています。江戸時代末、ここで採石が行われていた事がわかります。なお楽寿園外には、これほど深くはありませんが、採石場跡と思われる窪地が、かつては何ヶ所も有りました。

寿橋左右の付け根には溶岩洞穴が顔を覗かせています。深池で石切が行われる以前には、現在の寿橋の直下に東西に延びる溶岩洞穴が有り、その上部が陥没し、窪地を作っていた可能性もあります。

寿橋を渡り東門に向かって進むと、案内板の近くに大きな四角い石がぽつんと置かれています。花崗岩です。小松の宮様が楽寿園を造園する際に庭石として瀬戸内海方面から運んできた石材の残りです。この辺りから深池にかけては明治5年まで宝国院と言うお寺が有りました。

その東側に、溶岩塚（溶岩流の末端で、上流からの溶岩に押され、行き場を失った溶岩やガスが上側に移動したために盛り上がり、塚状になった地形）の西側が採石で削り取られ、溶岩洞穴が顔を出しています。よく見ると溶岩塚から流れ出した溶岩が縄を並べた様に固まった「縄状溶岩」も観察できます。また、溶岩洞穴の上位には別の溶岩が乗り、その重みで洞穴は撓んだ形をしています。注意深く観察すると、溶岩洞穴は小さいものを含め楽寿園内に10ヶ所近くあります。昔は、たくさんのホームレスが住んでいたそうです。なお、この溶岩洞穴の南側一帯には、江戸時代、文徹院というお寺と墓地がありました。



深池



花崗岩の石材



溶岩洞穴

(増島 淳／三島市郷土資料館運営協議会委員)

ふるさと講座報告



迫田先生の解説を聞く参加者

「箱根西坂を歩く」 講師：文化振興課 辻 真人学芸員

●平成23年10月1日(土) ●参加者 28人

「三島宿探訪」 講師：郷土資料館運営協議会委員長 迫田信行氏

●平成23年11月5日(土) ●参加者 14人

通常のウォーキングとは異なり、学芸員や郷土史に詳しい先生から名所・旧跡等の説明やその場所にまつわるエピソードなどを聞きながら歩き巡るということで、参加者の皆さんに大変好評でした。同様の講座を毎年実施してほしいといった声もありました。両テーマとも約10年ぶりの実施でしたので、今後、以前行ったテーマやコースなどを見直して、実施につなげていきたいと思ひます。

刊行物近刊のお知らせ

『三島市郷土資料館研究報告 5』 平成24年3月末刊行予定 頒布予定価格 1,000円

- | | |
|--|-------------|
| ・中島落合家文書村差出帳による広域行政 | 政木 愛子・橋本 敬之 |
| ・町村連合会から郡会への地方行政－明治時代前半の伊豆国を事例として－ | 桜井 祥行 |
| ・伊豆国町村連合会における勸業資本金の運用 | 笹山 曜子 |
| ・幕末の諸相－三島宿を中心にして－ | 大川 裕代 |
| ・郷土資料館の教育普及活動－幼児向け事業についての一考察－ | 小田 知里 |
| ・三四呂人形の重量と表現との関係について | 平林 研治 |
| ・「ジオツアー三島宿」の成果(1)－石燈籠・境川が涸れた時期・三島宿の古道－ | 増島 淳 |

『中 鈴木家文書目録』 平成24年3月末刊行予定 頒布予定価格 2,000円

今年度、国の重点分野雇用創造事業を活用して整理された三島市中 鈴木家文書についての資料目録を刊行します。鈴木家は、近世を通じて代々中村の名主を務めた家柄で、明治時代には三島製紙会社を運営するなど、三島・田方地域の殖産興業にも大きな役割を果たしました。鈴木家から寄贈を受けた2,598点にも及ぶ古文書には、近世初頭から明治時代にかけての貢租や産業、商業・金融などの資料が充実していて、特に三島宿の近郊農村のあり方を知る上で、このうえなく有用な資料が収められています。

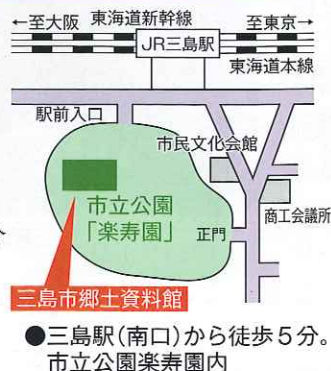
【編集後記】 今年はNHK大河ドラマ「平清盛」、原田真人監督の映画「わが母の記」、秋原北胤監督の映画「一遍上人」と立て続けに三島にゆかりのある人物が登場するドラマの放映や映画の公開があり、ワクワクしています。これを機会に、三島のまちがさらに注目されると嬉しいです。

利用案内

- 休館日
毎週月曜日
(祝日の時は翌日)
12月27日～1月2日

- 開館時間
午前9時～午後5時
(4/1～10/31)
午前9時～午後4時30分
(11/1～3/31)

- 入館無料
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



郷土資料館だより vol.34 No.3 (第102号)

発行日 平成24年(2012)3月25日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/
発行 三島市教育委員会